

## 園芸委員会の挑戦

— 植物を育てたり、よりよい環境を創造することから、命と学びを育てる —


今年度の園芸委員会は、4月に「園芸ってどんな仕事だろう？」という問いから始まりました。


話し合いを重ね、子どもたちは次の**3つの目標**を自分たちで決定しました。

1. 植物を育てることで興味を持ち、命の大切さを学ぶ
2. 花や緑を増やし、学校をより快適で美しい環境にする
3. 豊かな心を持ち、思いやりのある児童を育てる

## 2つのプロジェクトチーム

目標達成に向けて、

 植物・肥料チーム

 ビオトープチーム

の2チームに分かれて活動しました。

「大きなことは先生に相談して、小さな動きは自分たちでどんどん進めていい」

という約束のもと、主体的に挑戦しました。

## 「みんなが憩える場所をつくりたい！」



6年生から、こんな言葉が聞こえてきました。

なぜかを聞くと、

「子どもの中にも落ち着かない子がいるし、先生たちも大変で心を休めてほしいから...。」

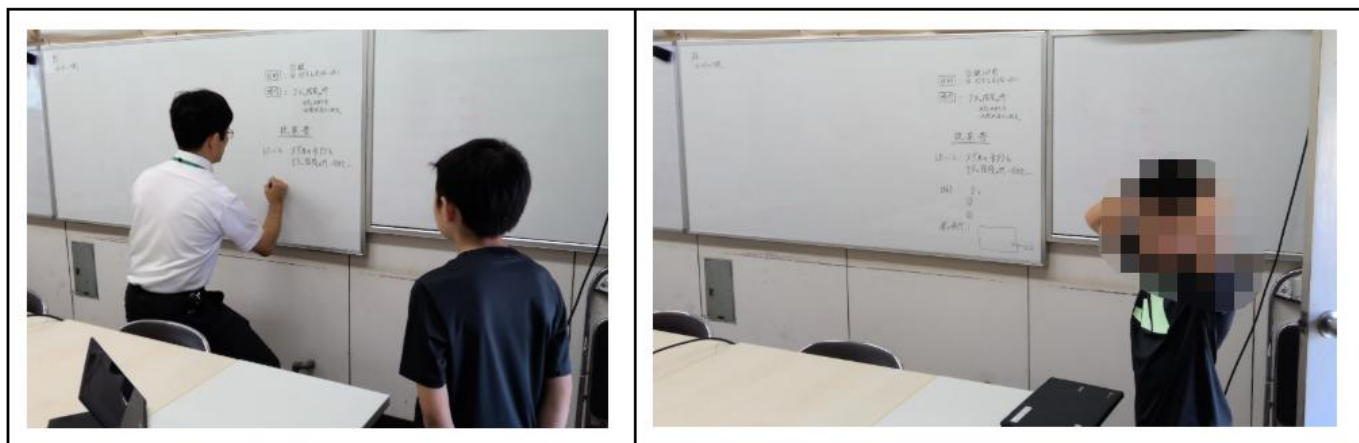
なんてステキなんでしょう！！ ちょっと泣けてきますよね(；ω；`)

早速、校長先生に相談に行きました。

そうしたら、学校の環境を変えるのはそう簡単なことではない。しかしながら、子どもたちにそれを変えていく経験をさせるのはとてもいい学びになる、といったお話でした。

そこで、子どもとビオトープをつくる**提案書**をつくらうということで、作って**プレゼン**することになりました。

### ビオトープ(休憩所)づくりに挑戦 提案書



自分たちの提案を実現するため、子どもたちは校長先生に提案書を作成し、プレゼンを行いました。

一度では通りません。


修正し、再提案し、何度もプレゼンを重ねました。

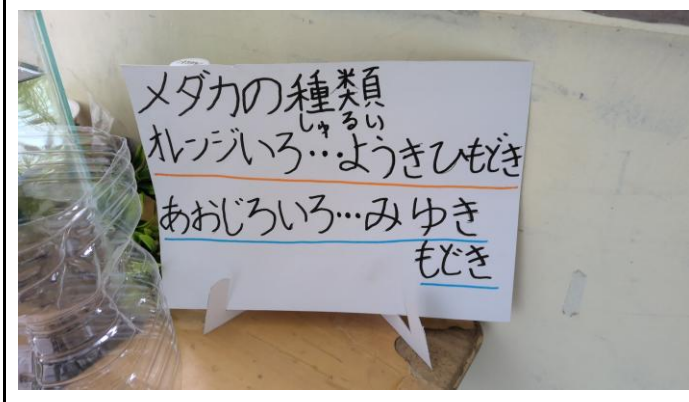
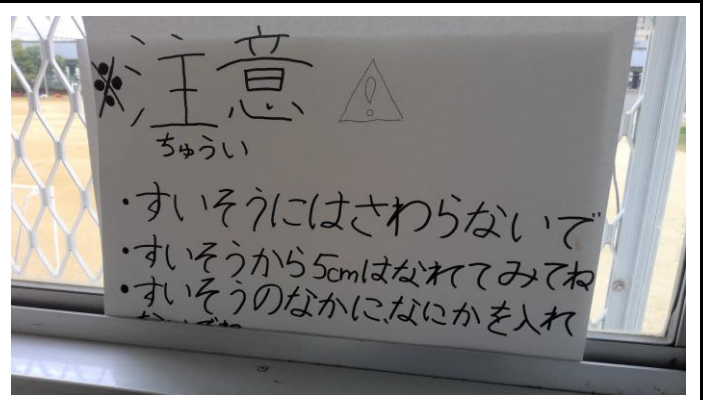
「どうすれば思いが伝わるか」

「何を根拠にすれば納得してもらえるか」

考え、工夫し、挑戦する姿がありました。

自分たちの願いを叶えるために、汗をかき、べそをかき、粘り強く取り組む経験を積んだのです。

 **命が集う場所へ**      **～メダカと仲良くなろう作戦～**



はじめは、飼育小屋横のスペースにビオトープを作り、メダカも育てたいと考えて動いていましたが、地域のメダカを飼っている方から「あまり暑いところでは、メダカは生きられない」との助言をいただき、室内で飼う方向に舵取りをしました。

こうした失敗体験というか、うまくいかなさも大切にしたいですね！

それでも、校内の一角にメダカ鑑賞スペースが生まれました。

こちらも、校長先生にプレゼンをして、どこで育てるのか、危なくないか、おそうじはどうするのかなど、突っ込みを入れてもらい、何とか実現することができました。

地域の民生委員の方からメダカの赤ちゃんを分けていただき飼育開始。

## 一人で夢は叶わない！地域の方とのコラボレーション

夢を一人で叶えるのは難しい！誰かの助けが必要です。

よく自立を「すべてのことを自分一人でやる」と思いがちですが、決してそうではありません。大人でも一人で生きている人なんて、無人島で暮らしている特別な環境下の人以外ではあり得ませんよね。

必要な時、必要なことは誰かに依存できる、依存先を増やせる人が自立の最強と言われます。

そうしたことを身をもって分かったのが園芸委員会の子どもたちではないでしょうか。



幾度となく相談に乗ってもらったり、助けを借りて、やりたいことを実現してきました。

相談を経て、次にどんなことをやりたいか、何をしなければいけないか、見通しを立てることも大切な学びになりました。

花チーム	7月9日	夏休みまでにやること 校長先生にお願いして花の種を買ってもらう 花壇の草抜き
		今日したこと 花を植えるために草刈りをした
ビオトープチーム		飼育小屋前の大そうじ 20分休み、放課後、できる人ができるときに進めていく
土チーム	やったこと	中庭の裏のブルーシートに刈った草などを置き、その上に石をおいて、乾燥できるようにした。
	やること	毎日できる人は、夏休みまで、今日やった作業をやっていく。
	夏休み	乾燥させる。
	2学期	作った肥料を実際に使ってみる。

## 🌿 学校の木の名前をみんなにも知ってもらおう！

ニッセイ緑の財団にて、こんな取組があったので、ちょうどいいと思って申し込みました。

## 樹木名プレート・学校の木のしおり

HOME > 木にふれる > 樹木名プレート・学校の木のしおり

身近にある自然に関心を持ってもらい、森林への理解を深めるため、「ニッセイの森」の間伐材で作成した「樹木名プレート」を学校や企業・団体等に寄贈しています。また、樹木名プレートを活用してより多くの方に身近な自然に親しんでいただくために、各学校オリジナルの「学校の木のしおり」も寄贈しています。

「樹木名プレート」や「学校の木のしおり」を活用した自然観察授業の開催など、**ご興味のある学校・幼稚園等の先生方からの応募をお待ちしております。(ページ下部)**

学校の木の名前を調べ（地域の博識の方に聞きました）、プレートを制作。



「これ、シュロっていうんや...。」何気なく聞こえてくる言葉に、全校児童に木の名前を知ってもらえるきっかけになったとうれしくなりました

### 🍊 学習とつながる園芸

3年生の先生から「理科の学習で、学校にみかんの木があったらいいなあと思って、何とかありませんか？」という依頼がきました。

そこで、地域の方に呼び掛けたところ、さっそくみかんの木の苗を買って持ってきてくださいました。

↓ 子どもたちと苗植えをしているところです。



また、1年生の季節の工作の単元で使えるどんぐり。

これも、地域の方からどんぐりの種を分けてもらえることになり、ドングリの育成にも取り組みました。

委員会活動が教科の学びとつながり、良い循環ができるなあとうれしくなりました。

—

## 主体的な学びの姿

活動の中で子どもたちは、

- ・ 課題を見つけ
- ・ 情報を集め
- ・ 根拠を整理し
- ・ 提案し
- ・ 改善し
- ・ 実行し
- ・ 振り返る

という一連の学習プロセスを経験しました。

そして最後の委員会で、六年生がこう振り返りました。

「やる事が決まっていなかったからこそ、自分たちで考えていろいろやったことが本当に楽しかった。」

「この園芸委員会をやってよかった。」

「この取り組みを次にもつなげてほしい。」

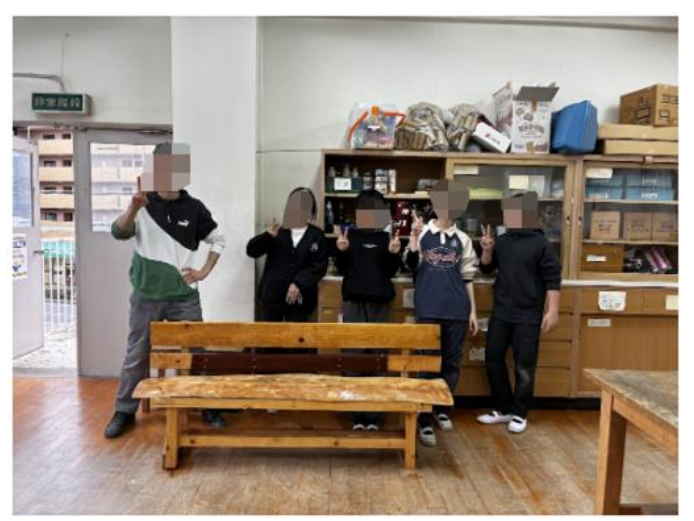
“与えられた活動”ではなく、“自分たちでつくる活動”だったからこそその言葉です。

園芸委員の活動を通して、子どもたちは、自分たちの力も育てていました。

私たち教員も、なかなか汗をかきましたが、それだけ充実した活動ができたなあと振り返っています。

来年度へ、このバトンを園芸委員会だけでなく、ほかの委員会、いろいろな活動につなげていきましょう！！







2月25日



みなさん、1年間の委員会活動おつかれさまでした！

5年生も6年生も本当によく考え、よく動くカッコいい姿を見せてもらいました。

最後にも伝えたように、活動の目的を考え、周りの人のために自分の力を尽くすことは、将来あなたたちが生きていく上で必ず役に立つ力になります。

月に一度の委員会活動でしたが、みなさんとたくさんの知恵を出し合い、いろいろな取り組みができたことは、先生にとっても、勉強になりました。

ありがとう😊

これから先も、誰かのために汗をかける人でいてください！